

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600380		
法人名	社会福祉法人 石狩市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームはまますなごみ		
所在地	石狩市浜益区実田93-17		
自己評価作成日	令和5年11月22日	評価結果市町村受理日	令和6年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0197600380-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0197600380-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和6年1月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季がはっきりしていてホールの大きな窓から見えるし感じられる。田舎なので動物や野鳥の姿も見られ、のんびりとした雰囲気地元の方々は「安心して過ごせる、ありがたい」と仰っていただいております。地元の野菜や魚やお米も新鮮でおいしいと好評です。生活の場が広く廊下も広いので歩行器を使っても移動もスムーズに交差出来ます。令和元年より外国人実習生の受入をしております。今年、頑張って介護福祉士合格しました。ずっとここで働きたいと言っています。今年8月にもう一人実習生を受け入れてもらいました。皆まじめで働き者なので大変助かっています。若い子達なので物覚えも早しい、日本語も覚えるのが早く私たちが苦労することはありません。石狩市と社協に感謝しています。インドネシア人でイスラム教の為ジルバブをかぶっていないのではなく、初めは利用者さん側は自分たちと違うので心配しましたが、全然誰も気にしたことがなく、私たちと同じように接しているのでもここにも驚きました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は石狩市北部の浜益区にあり、母体法人は「ふくしの里」として、一体の建物の中に特別養護老人ホームはまますあいどまりとシルバーホーム浜中荘と共に運営している。鉄筋コンクリート2階建ての1階に1ユニット7名が入居している。2階の特養あいどまり・多目的ホールでは運営推進会議や研修に使用しており警備員も配置されている。1階の広々とした共用空間では大きな窓から温泉公園の木々や四季の移り変わりを楽しみながら「なごみ」の命名由来である「和む」「和やかになる」「穏やかになる」を職員と共にゆったりと過ごしている。入居者のほとんどが地元で漁業や農業に携わった方々で馴染み同士が多く、「浜言葉」などで、昔を懐かしんでいる。インドネシアからの外国人労働者も2名稼働しており、1名は介護福祉士に合格し、継続して働いている。他1名は昨年8月から実習生として受け入れている。特養看護師が協力医と連携し利用者の健康管理に当たっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目の届くところに貼り、いつでも見られる様にしている。	事業所理念をホールの壁に掲示し、職員は利用者が自宅での生活と感じられるよう理念の実現に向けて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナでそのような機会も激減しておりますが、段々回復しています。	コロナ禍後、初めて、地域行事である「生きがいつくり学園 文化祭」に参加し、歌や踊り見学を通して地域交流をしている。地域高齢者の集いに送迎の手伝いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談や、中学校での介護の出前講座という事を毎年1度行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会での外部評価について話してはいますが、理解しているのかどうか・説明はしておりますが質問や意見がないことがほほです。	運営推進会議は特養と合同で、区域自治会長、区域民生委員、浜益区行政職員、利用者家族の代表が参加して毎月行っている。面会や通院状況、行事、職員研修、外部評価結果等を報告し、意見等を得ている。議事録は関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携が無いとどの様な方が待機したいのかわからないので、連絡は常に取り合っている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは入退去情報等について連絡を取り合っている。保護課の担当者とは年2回の訪問を受ける等、連携を密にしている。地域包括支援センター主催による月1回の「浜ケアネット会議」に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に行い、施設内研修も必ず行い、職員同士の話し合いの場を設けている。ただし熊が施設周辺に出没しているのと、来園者が手洗いを行って頂く為、なごみの玄関は施錠している。	身体拘束委員会を3ヶ月に1回、虐待防止委員会と併せて開催している。その他に年2回の研修を行っている。昨年10月に身体拘束と虐待に関する事例報告を含めた研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を行い、施設内研修も開催している。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を行う際は包括に任せている。今までの利用者さんで活用している方は入所されたことがない。職員も長く働いている方が多いので、実習生以外は理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、来ていただき色々な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見の反映に取り組んでいますが、家族は家での本人しか見られていないのでこの生活の様子を説明しても中々わかってもらえない方もいる。	毎月の通信「なごみ」の他に、3ヶ月に1回、個別毎に家族への手紙とケアプランを送付して意見等を聞いている。他に電話での対応の際にも聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも職員と相談しながら行っている。	管理者は職員からの日常業務や支援方法に関する提案や意見、気付き等を尊重し、何でも相談しながら行っている。日々の申し送り時に共有し、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	色々な働き方を考えその都度の対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会には参加している。中々コロナやインフルエンザが流行っているので行きたがらないが、出来るだけその人に合った研修に参加出来るようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ、インフルエンザ流行で現在行けていないことが多いが、市内のグループホーム会議には出席するようにしたい。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人も職員も慣れるまでは不安で常に職員同士話し合いに努め、本人の意向や家族の意向に添えるように常に考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は常に日常の様子をほぼ毎日報告し家族意見も聞きながら、一日も早く落ち着いて生活できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは使えませんがその人に今必要なことを常に職員同士話し、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ手を出さず、こうしたらいいのでは？と声掛けするようにし、本人が自分で出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも家族に電話や面会が出来るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では行けてなかった、老人の集まりにも積極的に参加するようになってきている。	事業所への訪問が少ないので地域行事「生きがいがづくり学園 文化祭」等に参加するなど支援している。定期的に来訪する訪問理容等の馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファを置き常にいる方とお話出来るように所々に場を設けている。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所しても相談には応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人一人は違うのだから支援、介護も違うのでは？決して一色単にはならない。	一人ひとりの思いや要望は日常の会話やケアの中で把握している。ろうあ者の方にはジェスチャーや仕草から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から家族面談、本人面談に努め、生活歴や性格等、包括に聞きながら行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行器で移動の方もいれば付き添いの方もいるので現状が把握できないと事故につながるので毎日の様子等は職員同士共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の時に全員のモニタリングを行い、計画表に反映させている。	管理者は会議の時に全員のモニタリングを行い、短期3ヶ月、長期6ヶ月でプランを見直している。状態変化時の際は都度見直している。家族には3ヶ月毎に送付する手紙等と一緒に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや会議等日々の話でその都度変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	田舎なので本来のグループホームという事は通用しないので家族と相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人に合わせて生活していると思います、ただ安全に過ごして頂きたいので時にはトイレにも付いてきてほしくないような利用者さんがいるのですが安全面を考えると付き添いで行かせて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1っか月に3回往診に来ています、体調の変化によってその都度受診しております。	区域内に1件ある国保診療所が協力医として1ヶ月に3回往診している。専門病院は主治医の指示に従っている。通常の健康管理は特養の看護師が協力医と連携して24時間支援している。	



グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちは散々してきたんだからここまでできてたくないという方が大半で手伝いはできません、高齢者が多く、皆していないのにどうして私だけしなくてはならない？と逆に言われます、そのため食事は楽しみな様ですがやりたくないようです。	メニューは職員が栄養士と相談して決めている。食材は1週間分を注文して発注している。魚、野菜は家族や地元の方が提供している。季節行事食は特養の厨房から提供している。それ以外は職員が調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士と相談したり、一人一人の嗜好も分かっている、区内で収穫する野菜や魚等も提供し喜んで食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず1日3回食事後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツの方が良いという方布パンツが良いという方々ですが、今入所されている方の排泄パターンは職員皆把握している。	排泄表に基づき、声かけや誘導、見守りをしてトイレ排泄を支援している。布パンツや紙パンツ、パッド交換など状況に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便調整を服薬で行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は面倒な方が多くむしろこちらで決めないと入らないという事もあり、こちらで決めて入って頂いております。	週3回(月・水・金)午後入浴を基本に、肌の乾燥防止のため入浴剤を使用している。利用者全員が入浴しており、3人入浴や湯上りのスポーツドリンク、果物提供を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼夜逆転にならない様心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はこぼしてしまうことがあるので全介助口まで入れて飲み込むまで見守り、服薬はこちら管理でDrも中止にするか、処方もある程度聞いていただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や何かの集まりには参加できるように支援している。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	区内での老人の集まりは出来るだけ参加再開したい、家族の希望でどこかへ連れて行くと言われたら全面的に協力します。	地域包括支援センターが指導している駐車場での各地区毎の青空体操や町内行事の文化祭、カラオケ等に参加している。公園での桜見学やさくらんぼ狩りにも行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は前に利用者同士のトラブルがあったため、ご本人がいくらか持っていないと不安な方だけ無くしても良いと思う金額だけなら許可しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必ずかけたいと希望があれば、よっぽど夜中じゃない限り、かけるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作り自体が単純で分かりやすいと思う。	ホール内は窓が大きく、日差しが入り明るく、一人1個のソファがあり、入居者同士でテレビを見たり、体操やゲームをして楽しんでいる。室内は加湿器や窓開放などで居心地よく過ごせるよう工夫している。明年、エアコンの設備を予定している。壁には利用者の作品や行事写真を飾り付け生活感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に所々に座る場所を作り、どこにでも誰でも座れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、クローゼット、タンス完備となっており、家族も見に来ていて、本人の物があつた方が安心すると思うという事をお伝えしているのですが、中々皆さんテレビ位であとは持ってきていない方が多いです。	居室にはベットやクローゼット、タンスが備え付けられ、本人や家族と相談しながら洋服や写真、テレビ、椅子等使い慣れたものや好みのものを持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や立位が不安定な方は特に出来ることを生かした居室づくりをしております。居室は夜になると戸を閉められるので死角になってしまうから特に気を付けています。		